

日 時 令和5年9月16日（土）13時30分～14時40分
場 所 北海きたえーる 研修室
出席者 生島典明、紺屋正雄、黒田謙二、渋谷研一、
田中昌幸、印藤智一、丸山道博、家近昭彦、
石崎 賢、川崎尚子、笹森恭之、浅野泰弘、
坂本雅春、多田吉宏、佐見洋治、辻井淳一、
伊山和宏、川口智将、田中 淳、小川政憲、
宇野 要、鈴木和彦、松野清佳、沓沢幸一、
山口隆義、須田正毅（監事）、齊藤幸治（議
事録）

1 開 会（齊藤総務委員長）

※理事37名中26名の出席により、理事会の成立が報告された。

※開会前に道内Vリーグチームが紹介され、ヴォレアス北海道・北海道イエロースターズ・アルテミス北海道の代表者から挨拶を受けた。

また、渋谷副会長へのJVA功労者表彰の伝達式が執り行われ、生島会長から表彰状等が伝達された。

2 会長あいさつ（生島会長）

例年にも増して暑い夏が続いているが、このような中、インターハイが36年ぶりに釧路市等と旭川市で開催され、全国から多くの選手や関係者に参加いただき無事終了することができた。

大会開催に当たっては、当協会の役員のほか、開催地協会の皆様にも運営面のご協力をいただき感謝申し上げます。

10月下旬に開幕するVリーグの道内ホームゲームの開催にあっては、開催地協会と連携しながら当協会が主体となって大会運営に当たることから協力をお願いする。

本日は、高校選手権大会北海道代表決定戦の開催や、法人設立に向けた準備業務などについて審議いただくので、よろしく願います。

3 議事録署名人の選出

議事録署名人に生島会長のほか、鈴木理事、坂本常任理事の2名が指名された。

※規約第34条に基づき、会長が議長を務める。

4 協議事項

各担当者から、以下のとおり説明がなされ「承認」された。

（1）法人設立準備スケジュールと準備業務の委託契約について（印藤理事長・坂本総務副委員長・齊藤総務委員長）

協会法人化により「資金・財務管理」・「収入確保」・「人材育成」・「加盟団体との連携強化」の課題改善を目指すためのビジョンとポリシーが理事長から説明された。

協会法人化にあたり、「資金・財務管理」においては、基金の適正管理や不正防止を図るため、公認会計士等との契約をはじめ、不正しづらい仕組みを構築することや、「収入確保」では、V

リーグホームゲームの業務受託や国際大会の誘致など、基金に頼らない財源確保の実現を目指す必要があり、これらの課題改善を柱にしながら、「人材育成」や「加盟団体との連携強化」による地区協会のニーズへの対応に繋げることを目指していく。

このビジョンに基づき、法人設立に向けた準備業務を着実に進めるため、法人設立スケジュールと行政事務所との業務委託契約について提案がなされた。

(質疑)

・現団体から新法人に移行した場合、現団体の理事会構成員は変更となるか？

⇒今後、行政書士に相談して会議体を検討するが、理事会の構成は特段の変更はないものと考えている。

・新法人設立により、コンプライアンス対応等も必要になると思うが、顧問弁護士の配置は考えているか？

⇒道協会として弁護士配置は考えていないが、必要に応じて、JVA顧問弁護士に相談しながら対応するよう調整を図りたい。

・法人設立に向け、加盟団体として、何か取り組む必要があるか？

⇒道協会が法人化することで、加盟団体が何か取り組む必要は特にない。

・法人化する都道府県協会に対するJVAからの財政支援は？

⇒JVAブロック理事長会議において、法人格取得のための費用に係る補助が議論され、JVA-NETでも公表されている。

(意見)

新法人の設立に当たっては、役員の男女比にも配慮が求められる。人材発掘の面で難しさもあると思うが、積極的な女性登用を意識すべき。

(2) 北海道バレーボール協会規約の一部改正について (齊藤総務委員長)

本改正は、法人設立にあたり、現団体の「北海道バレーボール協会」から、新法人の「一般社団法人 北海道バレーボール協会」への移行を円滑に行うため、規約に現団体に係る「残余財産の帰属等(第11条)」と「解散(第17条・第23条)」に関する規定を追加するもので、規約改正は評議員会の議決事項であることから、施行期日を令和6年度定時評議員会の決議の日とする提案がなされた。

(意見)

・条の追加による「条ずれ」を防ぐため、新たに「第10条の2」として条文を追加した方が、混乱も少ないと思うので検討願う。

・第11条に追加する「公益法人」は、「本会と類似の事業を目的とする他の法人」としても支障はないものと思われるので、行政書士に確認のうえ検討願う。

(3) Vリーグチームとの業務委託契約について (齊藤総務委員長)

デンソーエアービーズ・ヴォレアス北海道・北海道イエロースターズ・アルテミス北海道と道内で開催される32試合のホームゲームの大会運営等について業務委託契約を締結する。

委託期間は、令和5年9月17日から令和6年3月31日までとし、チーム共通基準費や業務委託費により委託料を定め、契約締結を行う提案がなされた。

2023・24シーズンのホームゲーム開催日程表が資料配付された。

(4) 高校選手権大会北海道代表決定戦の開催について (石崎競技委員長)

11月15日～18日の日程で北海きたえーるを会場に開催予定。

出場チーム数は、男子37チーム、女子45チームの計82チームとし、基本的にはコロナ対応を撤廃し、コロナ禍前の大会運営に戻したうえで開催したい。

(意見)

コロナ対応を撤廃するとの説明だが、検温器や消毒液を入口に設置し、希望者が使用できるよう配慮が必要ではないか。

(5) 各地区協会及び加盟団体との意見交換会の開催について（齊藤総務委員長）

今回提案する意見交換会は、各地区協会が抱える運営上の課題の把握と、道協会の運営や法人化等に対する情報共有を図ることで相互理解を深めるとともに、今後の協会運営の参考とすることを目的に、12月9日（土）の第3回理事会終了後（15時予定）に、きたえーる研修室で、理事及び評議員に参加いただき開催するもの。

意見交換においては、地区協会等役員の人材や収入確保、全国・全道・Vリーグ大会の開催可否のほか、法人化による協会運営の改革等について、行政書士からの説明も交えて実施する提案がなされた。

4 報告事項

(1) 日本協会関係（印藤理事長）

・代表委員総会が開催され、以下のとおり説明があった。

強化関係では、本日から日本でOQTが開催される。

・全国大会関係では、開催地が公募にて決定されることとなり、北海道では今年度ヴィンテージ8が函館市で開催され、2024年は石川県開催が決まっている。

国際大会関係では、2027年の女子世界選手権の日本誘致が検討されている。

・暴力・暴言の撲滅に向けた「暴力撤廃アクション」の取組みを推進中で、各カテゴリー主催大会においてフラッグ掲示等が行われており、道協会としても撤廃アクションの取組みを推進するため、道協会・地区協会・加盟団体が主催する各種大会のプログラムにJVA啓発チラシを掲載するなど、可能な限り周知に努めることが、本日開催の常任理事会において確認されたのでご協力願う。

(2) 各委員会関係

・総務委員会（齊藤総務委員長）

令和5年度中間監査を10月21日（土）に開催する。

次回第3回理事会は12月9日（土）の13時30分から開催し、先ほど承認を得た「各地区協会及び加盟団体との意見交換会」を理事会終了後（15時予定）に開催する。

・競技委員会（石崎競技委員長）

9月9日・10日に天皇杯・皇后杯北海道ブロックラウンドが余市町で開催された。

男子は、札幌大谷中学校を含め9チームが、女子は8チームが参加し、ヴォレアス北海道とアルテミス北海道がファイナルラウンド進出を果たした。

全国インターハイが終了した。来年度は全国大会出場枠が1チームとなる。

・審判委員会（川崎審判委員長）

札幌協会の佐藤美里・上総向貴がS1レフェリーに認定された。

北海道スクール受講者の減少、Vリーグスタッフや9人制・ビーチ審判員の確保が課題となっており、特にVリーグスタッフ募集について各地区協会審判委員長を通じて依頼するので協力願う。

・強化委員会（家近副理事長）

国体少年の強化では、男子が道内チームを招待し、道内チームにも参加いただき強化練習会を開催する。また、女子は、ヴォレアス北海道のプレシーズンマッチにおいて、観客を前にJ

OCチームとの練習マッチを実施する。

・指導普及委員会（笹森指導普及委員長）

中学事業では、ジュニアキャンプ50周年を記念し祝賀会を開催したほか、記念誌を発行した。

指導者養成においては、7月15日～17日に北広島市でコーチ1講習会が開催され54名の受講があったほか、道公認コーチの講習会を15協会で開催いただいた。

・高体連（家近副理事長）

インターハイ開会式に生島会長、閉会式に印藤理事長にご参加いただき無事終了した。

釧路・旭川の開催地協会にも大変お世話になり感謝申し上げます。

(3) その他

・デンソーエアリービーズが、札幌市でバレーボールスクールを開催する。

指導者単独での参加も可能であり、希望者がいれば理事長まで連絡するよう周知願う。

5 その他

(意見)

全道中体連が留萌市で開催されたが、インターハイと開催時期が重なり、宿泊先の確保で参加チームや関係者に迷惑をかけた。競技団体が中学と高校で異なることで難しい面もあると思うが、日程調整の必要性を感じた。（宇野理事）

6 閉会

議事録署名人

会 長

生島典明

議事録署名人

鈴木和彦

議事録署名人

坂本雅春